

## 美浜中央小学校 6年生による「祭礼学習発表会」

日時：平成28年12月16日（金）8：35～9：20

場所：美浜中央小学校 和室

里山里海湖研究所では、中村研究員と研究協力者が、県内各地の漁撈文化、食文化、祭礼文化などを調査・研究する「里山里海湖文化プロジェクト」を行っています。その調査対象の1つに美浜町彌美神社の例大祭があります。彌美神社の例大祭は毎年5月1日に開催され、県の無形文化財に指定されている「王の舞」をはじめ、「御膳」と呼ばれる稲穂や魚、斧など様々な形をした餅の奉納、「一本幣」から「大御幣」に神様を移す「幣迎え」や、その「大御幣」を神輿の代わりにして奉納する「幣押し」などの数多くの神事が行われる伝統的な祭りです。

しかし、この例大祭も、他の全国の例にもれず、生活様式の変化や少子高齢化による担い手不足という課題を抱えています。そこで、例大祭を1つの祭礼行事ととらえるのではなく、里山里海湖の祭礼文化を軸とした地域振興という観点で調査・研究そして実践を進めてきています。その中心として活動されているのが、研究協力者である追手門学院大学の橋本裕之教授です。橋本教授は、30年以上にわたり彌美神社の例大祭を調査し続けており、中でも2001年から2009年までの9年間は、当時の彌美小学校（現在の美浜中央小学校）における「祭礼学習」の講師として、児童の調べ学習や発表会に深く携わってこられました。

例大祭を軸とした地域振興を進めるにあたり、この祭りの意義や歴史などに対する住民の意識が薄れてきているという課題が浮き彫りになってきたことから、祭りに関わる人はもちろん、広く地域住民の方々にその意義を理解してもらう勉強会を開催してきました。その一環として、将来の担い手である小学生に対する「祭礼学習」を2014年から復活させ、今回「祭礼学習発表会」として、6年生児童27名が、保護者の前で例大祭について調べ、学んだことを発表しました。

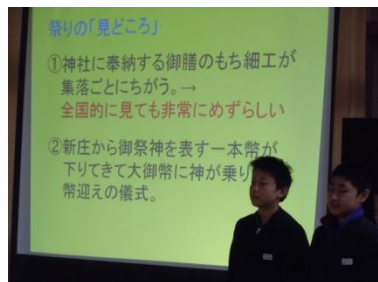
発表会を前に、橋本教授から彌美神社の例大祭で行われている数々の神事が、全国的にも珍しく、また歴史的な価値も高いものであり、地域の宝として誇らしいものであるといった話がありました。保護者の方々の中には初めて知る人もおり、感心して聞いていました。

その後、スライドや映像を用いた6年生の発表がありました。



児童・保護者を前に話す橋本教授

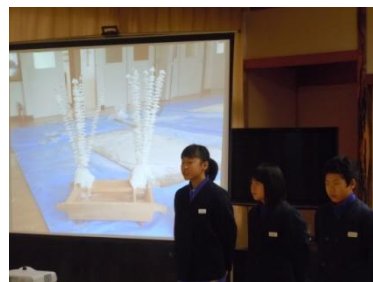
まずは、祭りの見どころとして、①神社に奉納する御膳の餅細工が集落ごとに違うこと、②一本幣から大御幣に神様が乗り移る幣迎えという儀式があることの2点を挙げていました。餅細工は、集落ごとの特産品（海岸沿いの集落は鯛の形、里地の集落は稲穂の形をしている）や、木を切る権利（大きな木を切る権利がある集落は斧の形、小さな枝などしか切れない集落はノコギリの形をしている）などを表していることを写真で示しながら報告しました。



祭りの「見どころ」について



鯛の形をした餅細工について



稲穂の形をした餅細工について

また、一本幣から大御幣に神様が乗り移るといふ神事についても、画像で紹介しました。

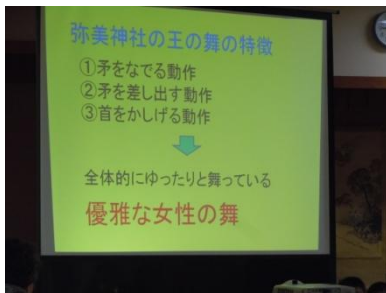


写真左：一本幣と大御幣 写真右：大御幣

次に、県の無形文化財にも指定されている「王の舞」についての発表がありました。「王の舞」は、天狗のような鼻高面をつけ鉾を持って舞う民俗芸能で、嶺南地方では16か所の神社で演じられています。地元では「オノマイ」とか「オノマイさん」と呼ばれ、地域の災厄を払い、豊作や豊漁をもたらすものとされています。これについて6年生児童は、彌美神社の「王の舞」だけでなく、若狭町の宇波西神社の「王の舞」との違いについてまで発表していました。それによると、彌美神社の方は、全体的にゆったりとした舞で、優雅な女性の舞であるのに対し、宇波西神社のそれは、全体的に力強く勇壮な男性の舞であるとのことでした。



「王の舞」について

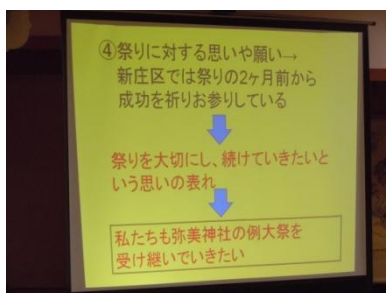
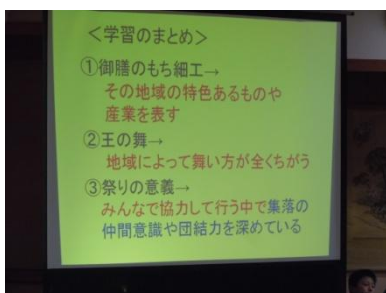


彌美神社と宇波神社の「王の舞」のそれぞれの特徴について



発表を熱心に聞く保護者

最後に、①御膳のもち細工、②王の舞、③祭りの意義、④祭りに対する思いや願いの4つについて学習のまとめがあり、自分たちも彌美神社の例大祭を受け継いでいきたいという強い思いで締めくくっていました。



学習のまとめ



発表する6年生のみなさん

こうして、小学校から地元に伝わる祭礼や伝統芸能の意義や歴史、振舞いなどを学習することにより、伝統を受け継いでいこうとする意識が醸成され、また、地域の大人への聞き取り調査を行ったり、保護者対象の発表会を開催したりすることで、大人にもその意識が伝えられ、大切にしていこうとする機運が高まっていくことが期待される「祭礼学習発表会」でした。